

※今月のみ受注の書目です。

教育／社会問題

学校に行かない子どもの社会史 不登校とフリースクールの源流 (仮)

(2024 年 11 月中旬刊行予定)

田中佑弥 (頌栄短期大学准教授)[著]

A5 判上製／256 頁 税込予価 3,960 円 ISBN978-4-7664-2995-4 C3037

👉 ココに注目！

- ・「学校に行かない子ども」への、社会からのまなざしの変遷を探る。
- ・現在の不登校支援の起点となる 1990 年代初頭までの認識や対応の変容を精緻に検証。
- ・毎年過去最多を更新し続ける不登校問題を考えるうえで、議論の基礎となる研究。

“学校ぎらい” “登校拒否” “不登校” ——「学校に行かない子ども」という問題は、どのように生まれたのか。そして学校に行かないことへの文部省の認識が、個人の「病気」や「性格的なもの」から「誰にも起こりうるもの」へと大きく転換していった約 30 年間の過程はどのようなものだったのか。多様な人びとの「声」から再構成する。

対象 (教育学・学校教育問題を専攻する) 研究者

類書 保坂亨『学校を長期欠席する子どもたち』明石書店

【営業部からのおすすめポイント】

本書では、1990 年代初頭に「学校に行かない」ことが、個人の病気や性格によるものから「誰にも起こりうるもの」として、文部省の認識が変化したことに注目します。こうした行政の認識変容はなぜ生じたのかを、日本のフリースクールの発展等も踏まえながら解説し、今後の支援のあり方へもつながる議論を提供します。 (乙子)

👉 目次、注文書、関連既刊を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！

【目次】

序 章

第Ⅰ部 学校に行かない子どもの問題化と学校外における諸対応 ——日本児童精神医学会と学校外の学びの場に注目して

第1章 学校に行かない子どもの研究と専門的対応の開始——1960年代を中心に

第2章 教育問題の顕在化と学校外の学びの場の成立——1970年代を中心に

第3章 子どもの人権侵害と新しい教育の希求——1980年代を中心に

第Ⅱ部 学校に行かない子どもに関する認識と対応の変容過程 ——奥地圭子たちの活動に着目して

第4章 学校に行かない子どもに関する新たな認識の生成——渡辺位と奥地圭子を中心に

第5章 「母親教師」としての奥地圭子——教育雑誌『ひと』における記述に着目して

第6章 学校に行かない子どもの治療をめぐる論争——稲村博と奥地圭子を中心に

第7章 学校に行かない子どもに関する行政の認識と対応の変容
——実態調査と有識者会議を中心に

終 章

付 論 学校外の学びの場への通学定期券制度の準用過程
——フリースクールと行政の関係性に着目して

年表

引用文献

索引



ご注文は FAX で！ 03－3451－3124



新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			田中佑弥 著 学校に行かない子どもの社会史 —不登校とフリースクールの源流（仮） ISBN978-4-7664-2995-4 C3037	3,960 円	★★

★1つで「500部」を表します

関連既刊（ぜひ併せてご注文ください！）

返品条件付注文品	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	定価(税込)
			内田良 著 教育現場を「臨床」する —学校のリアルと幻想 ISBN978-4-7664-2905-3 C0037	1,980 円
			増田健太郎 編著 学校の先生・SCにも知ってほしい 不登校の子どもに何が必要か ISBN978-4-7664-2238-2 C0077	2,200 円